

令和2年度職場アンケート実施報告

職場アンケートについて

卒業生が採用された職場の担当者を対象に、本学の進路支援を充実させるために、平成19年度に最初の職場アンケートを行った。そして平成22年度に、「大学教育・学生支援推進事業」（学生支援推進プログラム）補助金を獲得し、就職支援、さらには学生教育改革の資料とするために2回・3回を実施した。

そして、今回第4回目の職場アンケートを実施し以下の表-1に示す回答を得た。

表-1 本学卒業生、学生の評価上位3位

年度	備わっていると評価できる資質			欠けている、備わってほしい資質			送付数	回答数	回収率
H19	マナー・礼儀作法	協調性	明朗さ	ストレス耐性	ハズレイティ	発想の豊かさ	169	63	37.3%
H22	マナー・礼儀作法	明朗さ	誠実さ	ハズレイティ	発想の豊かさ	コミュニケーション能力	514	164	31.9%
H27	マナー・礼儀作法	誠実さ	協調性	主体性	ハズレイティ	コミュニケーション能力	365	166	45.5%
R2	マナー・礼儀作法	協調性	誠実さ	主体性	ストレス耐性	発想の豊かさ	396	147	37.1%

方法

本学の卒業生が過去5年間に就職している企業や病院、園や施設等の受け入れ事業所に郵送でアンケートを実施した。（令和2年10月下旬～令和2年12月下旬）

アンケートの目的：本学のキャリア教育等へ反映させ、教育改善へ役立てることを目的とする。

「調査内容」

- 1 前回アンケート結果との経年比較（P4～P6 参照）
- 2 新規項目（P7～P10 参照）として、中央教育審議会答申にある「学士力」や経済産業省が提唱する「社会人基礎力」等に基づき、近年求められている、社会人として必要と思われる能力・資質が備わっているかについての調査。
- 3 平成30年度に実施した「卒業生アンケート調査」（P10～P13 参照）と、今回の「職場アンケート」の比較調査。
- 4 コロナ禍におけるの次年度採用計画等についての調査（P3、P14 参照）。

アンケート

事業所名 ()

1. 経年比較項目

以下の5つの質問に、次の17項目の選択肢の中から5つ以内で該当する番号を選んで回答してください。項目がない場合は () に記入ください。

1.一般常識	2.専門性(資格等)	3.マナー・礼儀作法	4.明朗さ	5.バイタリティ	
6.熱意	7.奉仕の精神	8.ストレス耐性	9.やさしさ	10.コミュニケーション能力	
11.発想の豊かさ	12.協調性	13.社交性	14.誠実さ	15.実務能力	16.粘り強さ
17.主体性					

Q1. 一般的に、新卒者(女子)の採用にあたって重視しているのはどのような資質でしょうか。

					()
--	--	--	--	--	-----

Q2. 雇用した本学の卒業生あるいは就職活動で対応した本学の学生をみて、比較的に備わっていると感じられ評価できる点はどんなところですか。

					()
--	--	--	--	--	-----

Q3. 本学の卒業生及び学生に欠けている、あるいはもっと備わっていて欲しいと思われる点はどんなところですか。

					()
--	--	--	--	--	-----

Q4. 一般的に、今後、求める人材像から見た大学教育に期待するものとして重要な資質は何だと思われますか。

					()
--	--	--	--	--	-----

Q5. 社会に必要とされる人材育成のために、本学ではインターンシップや各種講座における人事担当者やOG(卒業生)の講話などを依頼しておりますが、そのような要請があった場合にお引き受けくださいますか。また、その場合の連絡先をご記入ください。

- はい (部署名) 御担当者様氏名)
- いいえ

2. 新規項目

(1) 次の表に掲げる能力・資質は、中央教育審議会答申にある「学士力」や経済産業省が提唱する「社会人基礎力」等に基づき、社会人として必要と思われる能力・資質を挙げたものです。本学卒業生の現況に照らして、評価項目の ①身に付いている ②どちらともいえない ③身に付いていない、いずれかに○印を付けてください。

結果と考察

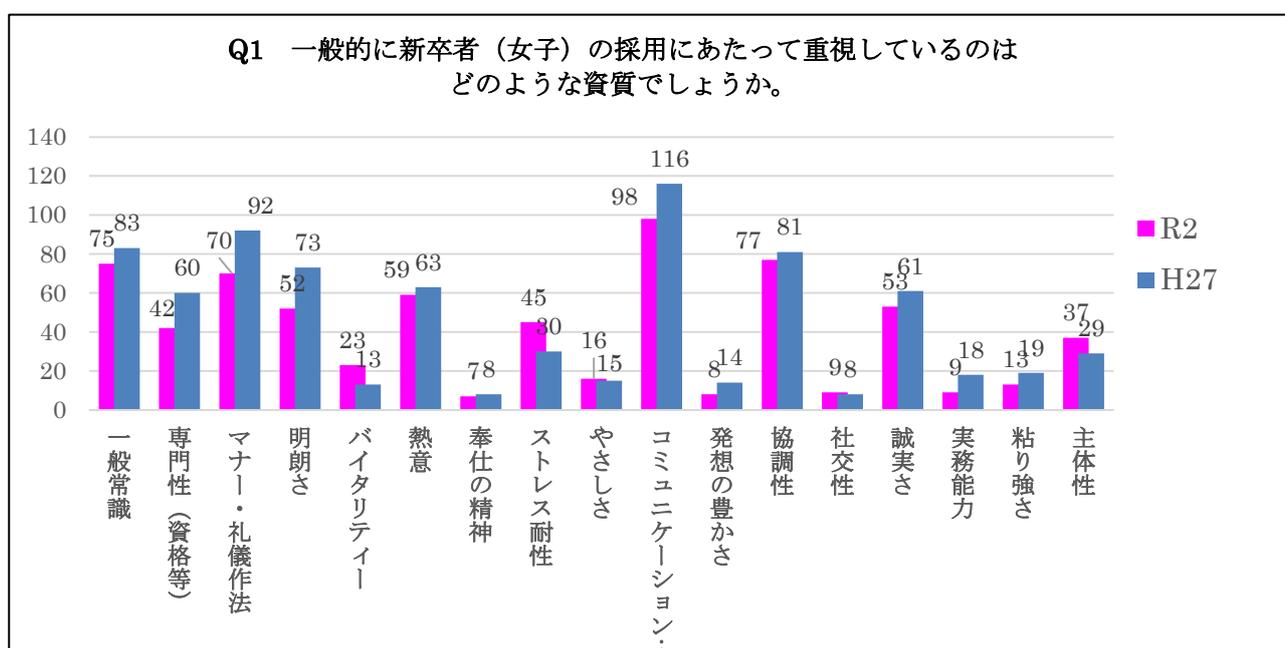
1 経年比較項目

表-2 結果一覧（全学科合計：数字は回答数）

	一般常識	専門性(資格等)	マナー・礼儀作法	明朗さ	バイタリテイ	熱意	奉仕の精神	ストレス耐性	やさしさ	コミュニケーション能力	発想の豊かさ	協調性	社交性	誠実さ	実務能力	粘り強さ	主体性
Q1	75 (83)	42 (60)	70 (92)	52 (73)	23 (13)	59 (63)	7 (8)	45 (30)	16 (15)	98 (116)	8 (14)	77 (81)	9 (8)	53 (61)	9 (18)	13 (19)	37 (29)
Q2	46 (50)	40 (33)	87 (93)	53 (43)	16 (7)	26 (32)	25 (28)	21 (10)	59 (61)	46 (33)	4 (5)	66 (66)	13 (14)	65 (82)	14 (20)	9 (25)	12 (15)
Q3	9 (15)	11 (12)	10 (11)	3 (10)	30 (42)	27 (22)	10 (6)	42 (30)	3 (0)	21 (36)	35 (29)	4 (10)	10 (13)	4 (5)	18 (22)	27 (21)	53 (45)
Q4	43 (54)	54 (48)	38 (53)	8 (13)	19 (22)	30 (36)	5 (11)	53 (54)	3 (2)	94 (101)	36 (49)	63 (39)	15 (13)	26 (23)	20 (40)	27 (30)	71 (67)

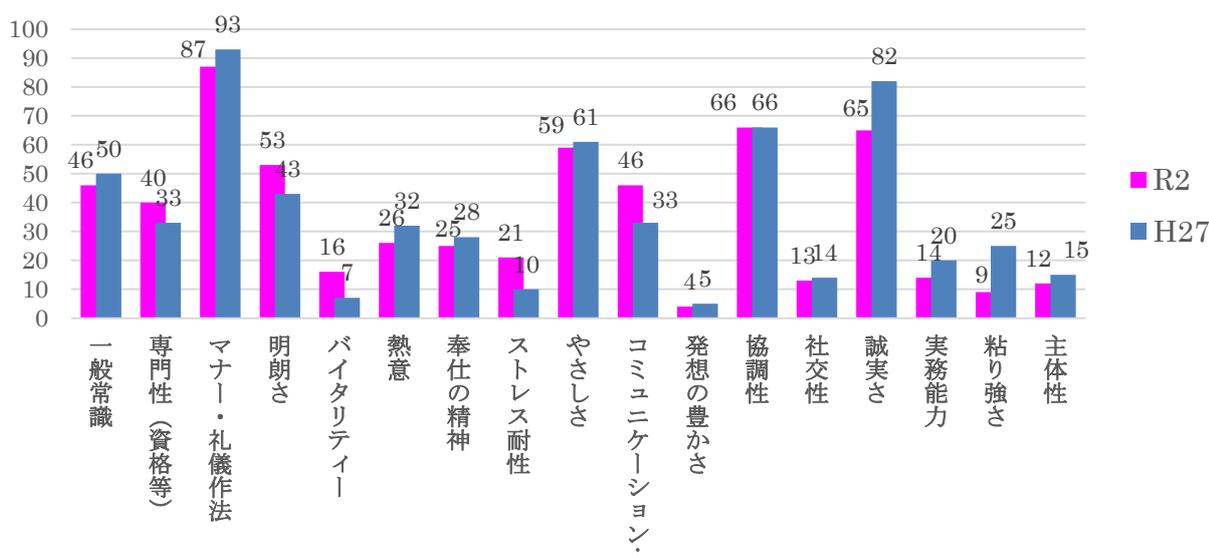
※赤字は上位3位。()は前回調査上位3位

「質問項目ごとの経年比較（全学科合計：数字は回答数）」



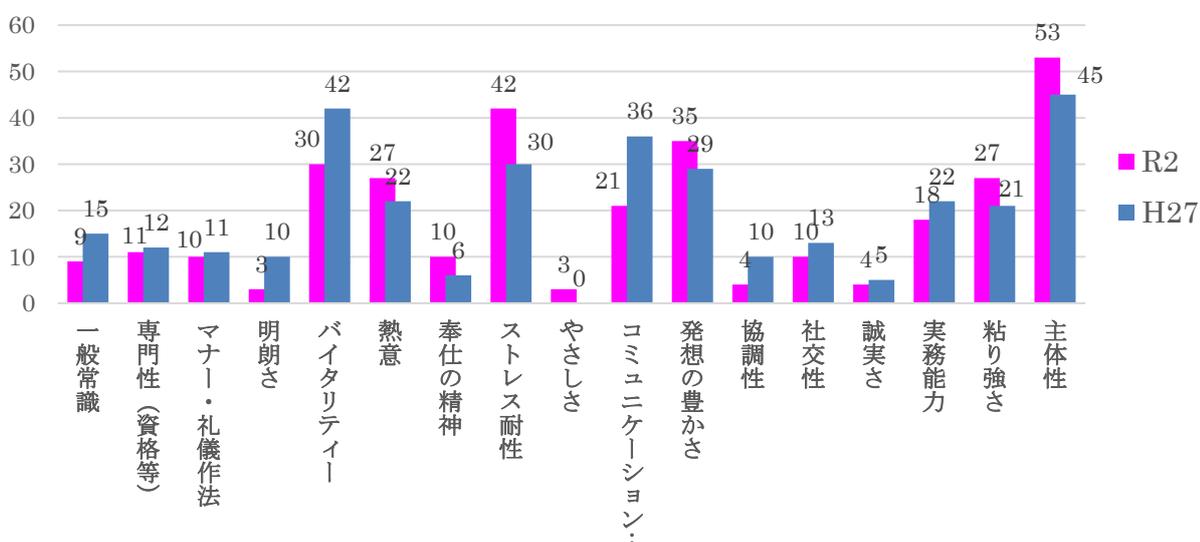
採用にあたり重視している資質として、今年度調査では1位「コミュニケーション能力」2位「協調性」3位「一般常識」。前回調査では1位「コミュニケーション能力」2位「マナー・礼儀作法」3位「一般常識」であった。1位の「コミュニケーション能力」については、他項目より突出して高い回答があった。あらゆる業種において、最も求められる資質であることが裏付けられた。

Q2.雇用した本学の卒業生あるいは就職活動で対応した本学の学生をみて、比較的備わっていると感じられ評価できる点はどんなところですか



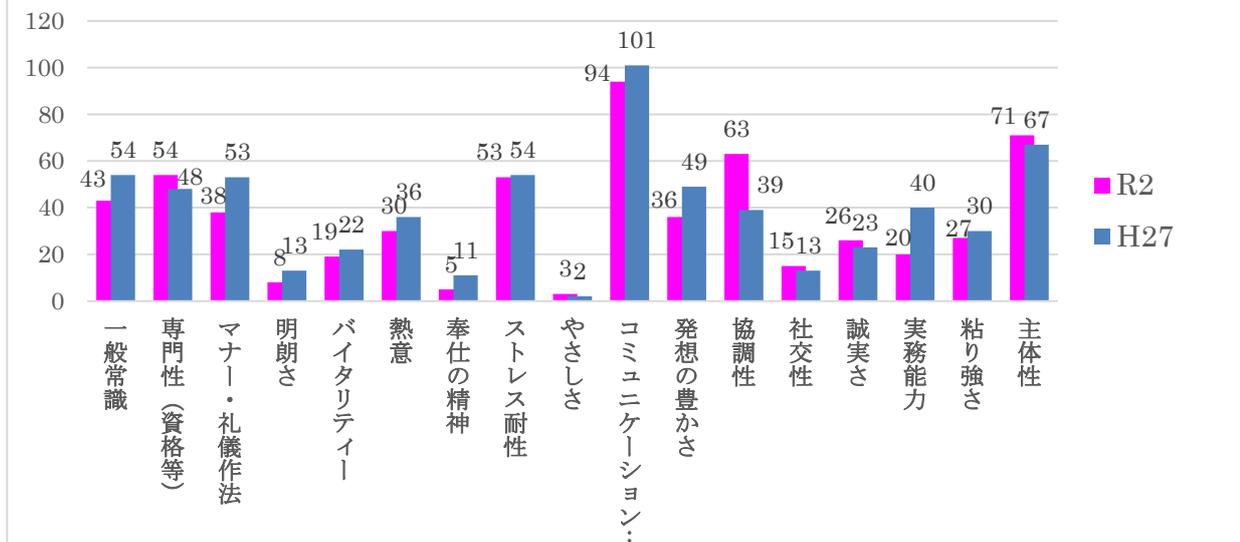
比較的備わっている資質として、今年度調査では1位「マナー・礼儀作法」2位「協調性」3位「誠実さ」。ほぼ前回同様の調査結果となった。本学卒業生は「マナー・礼儀作法」が備わり、「誠実」で「協調性」がある人材であるという評価が定着しているようだ。

Q3.本学の卒業生及び学生に欠けている、あるいはもっと備わっていて欲しいと思われる点はどんなところですか



本学の卒業生及び学生に欠けている資質として、上位3位に挙げられるのが「主体性」「ストレス耐性」「発想の豊かさ」であった。「主体性」「ストレス耐性」については前回調査より回答数が増える結果となった。「主体性」の無さについては、仕事をする上で「指示待ち」や積極的姿勢に欠けるとの評価であり、「ストレス耐性」の欠如については、学生生活において多様な人間関係を構築する機会が少ないため、対人的なストレスに対する対処法が分からない等が理由として考えられる。

Q4.一般的に今後、求める人材像から見た大学教育に期待するものとして
重要な資質は何だと思われますか



大学教育に期待する資質の1位が「コミュニケーション能力」。2位「主体性」。3位「協調性」という結果であった。これらは Q1 で問われた、新卒女子の採用にあたって重視する資質とほぼ同様である。このことから、採用で重視する資質については、大学教育でしっかり身に付けてきて欲しいということが分かる。

2 考察のまとめ

今回の調査結果において、多くの採用側が求める人材として「コミュニケーション能力」のある人材であるということが分かる。

しかし、Q2「本学卒業生に比較的備わっている資質」として回答が多かったのは、「マナー・礼儀作法」「協調性」「誠実さ」であり、「コミュニケーション能力」についての評価は高いものではなかった。

さらに、Q3「本学卒業生に欠けている、あるいはもっと備わって欲しい資質」として「主体性」「ストレス耐性」「発想の豊かさ」等が多くあげられている。

今後は「コミュニケーション能力」の資質向上はもちろん、「主体性」「ストレス耐性」「発想の豊かさ」等、「社会人基礎力（経済産業省）」や「就職基礎能力（厚生労働省）」に含まれる資質向上を念頭においた教育を行うことが必要であると考えられる。

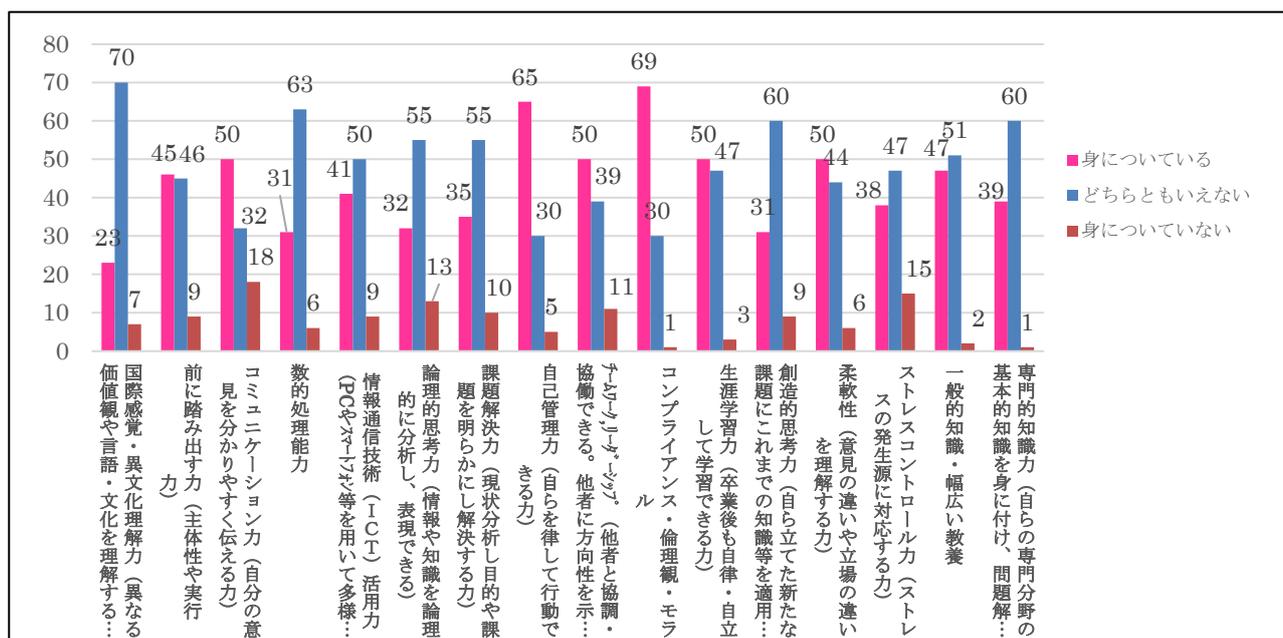
結果と考察

2 新規項目

表-3 結果一覧（全学科合計：％）

	身に付いている	どちらともいえない	身に付いていない
国際感覚・異文化理解力（異なる価値観や言語・文化を理解する力）	23	70	7
前に踏み出す力（主体性や実行力）	46	45	9
コミュニケーション力（自分の意見を分かりやすく伝える力）	50	32	18
数的処理能力	31	63	6
情報通信技術（ICT）活用力（PCやスマートフォン等を用いて多様な情報を収集・分析して効果的に活用できる力）	41	50	9
論理的思考力（情報や知識を論理的に分析し、表現できる）	32	55	13
課題解決力（現状分析し目的や課題を明らかにし解決する力）	35	55	10
自己管理能力（自らを律して行動できる力）	65	30	5
チームワーク、リーダーシップ（他者と協調・協働できる。他者に方向性を示し目標実現のため動員できる）	50	39	11
コンプライアンス・倫理観・モラル	69	30	1
生涯学習力（卒業後も自律・自立して学習できる力）	50	47	3
創造的思考力（自ら立てた新たな課題にこれまでの知識等を適用し解決する力）	31	60	9
柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）	50	44	6
ストレスコントロール力（ストレスの発生源に対応する力）	38	47	15
一般的知識・幅広い教養	47	51	2
専門的知識力（自らの専門分野の基本的知識を身に付け、問題解決のために応用できる力）	39	60	1

「表-3 のグラフ化（％）」

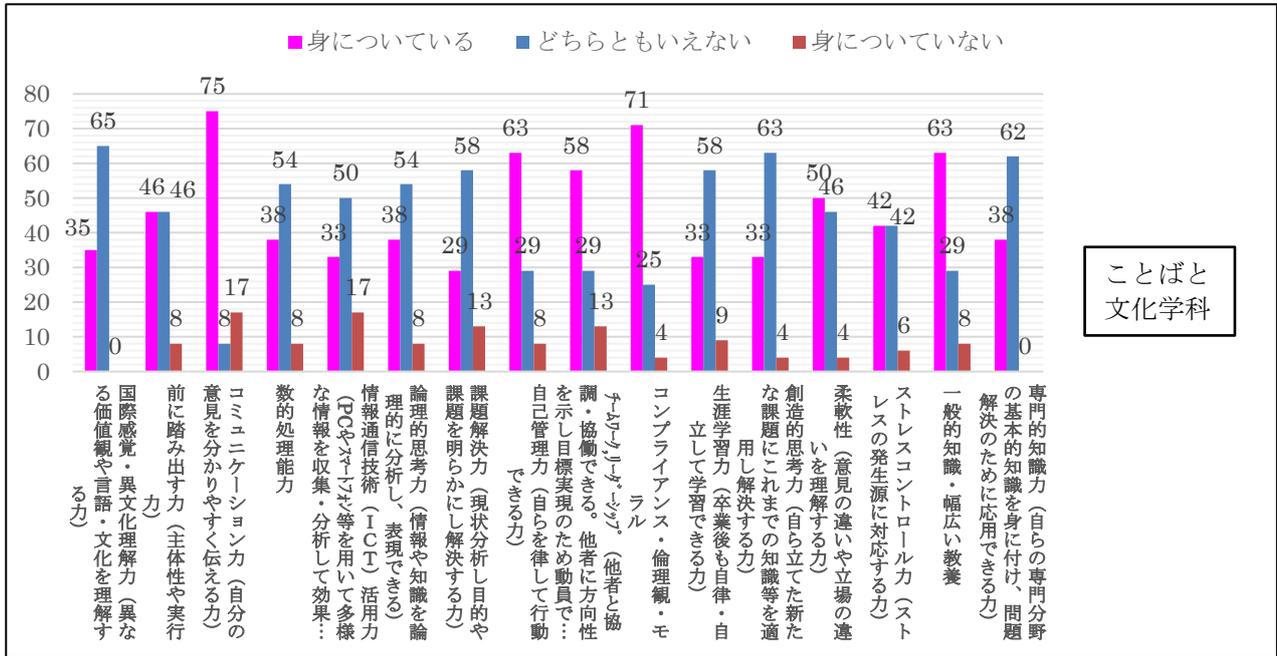


全学科の総合評価では、「身に付いている」の評価で1位「コンプライアンス・倫理観・モラル

ル」、2位「自己管理能力」、3位「コミュニケーション力」であった。一方で「コミュニケーション力」や「論理的思考力」、「ストレスコントロール力」等が「身につけていない」との評価も一定数あり、内面的な強さがあるとの評価の反面、対人的な弱さも垣間見える結果となった。

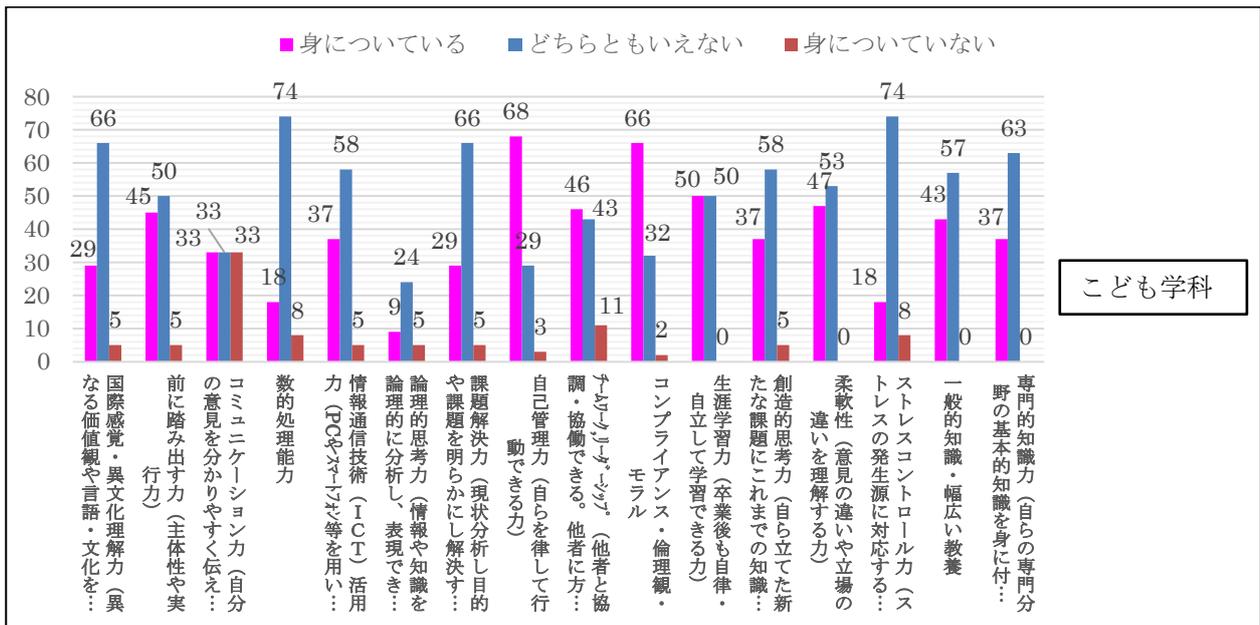
表-4 結果一覧 (学科別%)

「ことばと文化学科」



ことばと文化学科の調査結果については、「身に付いている」の1位「コミュニケーション力」、2位「コンプライアンス・倫理観・モラル」、3位「一般的知識」「自己管理能力」「チームワーク・リーダーシップ」だった。上位1位～3位が特に高い評価であった理由として、本学の教育内容（語学教育等）や、カトリック教育の成果もあったと考える。一方で専門分野の一つである「国際感覚・異文化理解力」については評価が低かった。

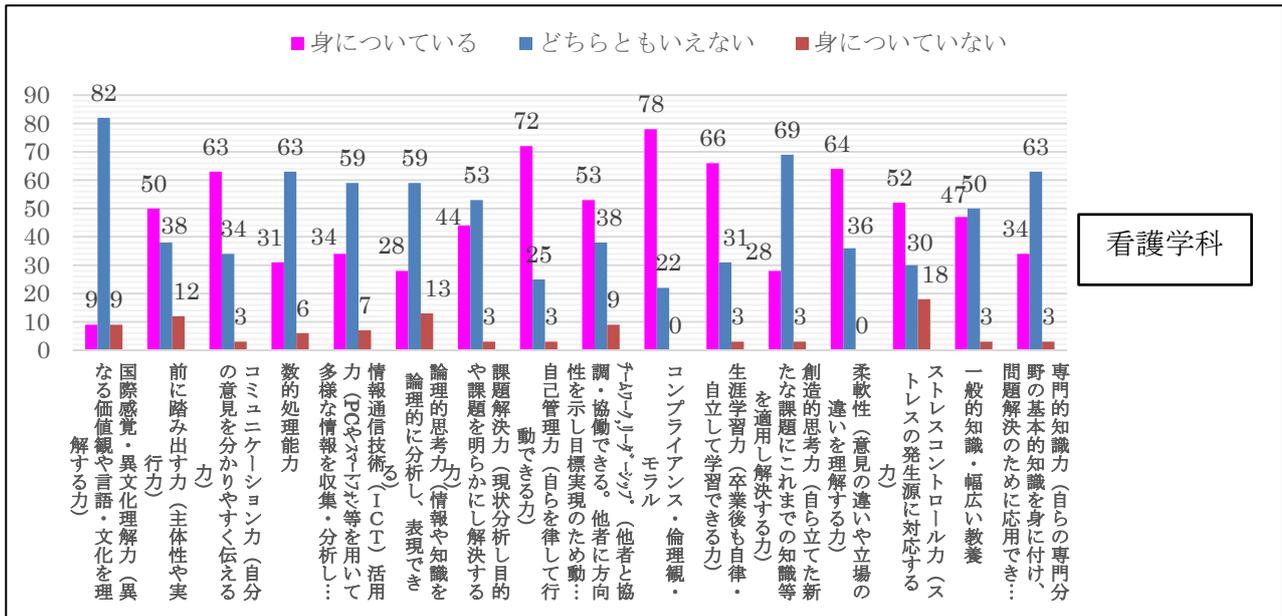
「こども学科」



こども学科の調査結果については、ことばと文化学科と同様に、「自己管理能力」「コンプライアンス・倫理観・モラル」が身に付いているとの評価が高かった。

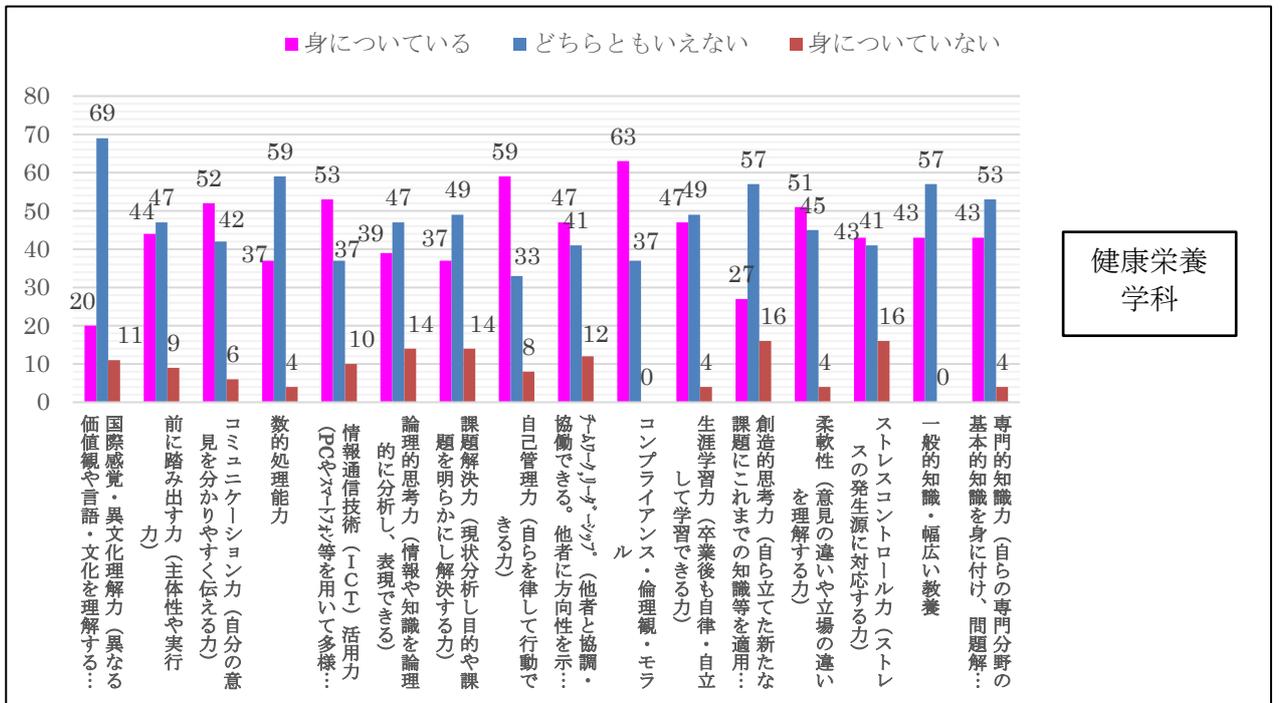
しかし職場で特に必要な「コミュニケーション力」については、「どちらともいえない」、「身に付いていない」も同数の回答があり、職場によって評価が分かれる結果になった。

「看護学科」



看護学科の調査結果については、「コンプライアンス・倫理観・モラル」「自己管理能力」「生涯学習力」「コミュニケーション力」「柔軟性」等、いずれも看護分野で特に必要な資質について高い評価を受けている。「生涯学習力」について高い評価を受けていることは、学び続ける姿勢が身に付いていることが評価されたものと考えられる。

「健康栄養学科」



健康栄養学科の調査結果については「コンプライアンス・倫理観・モラル」「自己管理能力」「情報通信技術活用力」「柔軟性」等が高い評価を受けている。特徴的な評価は「情報通信技術活用力」が高い点である。栄養価計算等のパソコンソフト等を在学中に扱う機会が多く、職場との連動性が高いためだと思われる。

表-5 卒業生アンケート結果

(平成30年度実施：13期生～21期生全学科合計：数字は回答数)

	身に付いた	どちらともいえない	身に付いていない
国際感覚・異文化理解力	28	56	58
主体性・実行力	70	67	5
コミュニケーション力	66	69	7
数的処理能力	33	73	36
ICT活用力	44	76	22
論理的思考力	44	90	8
課題解決力	84	54	4
自己管理能力	90	48	4
チームワーク・リーダーシップ	77	58	7
倫理観・モラル	93	48	1
生涯学習力	76	56	10
創造的思考力	61	75	6
柔軟性	96	40	6
ストレス耐性	72	58	12
一般的知識・教養	39	92	11
専門的知識	63	74	5

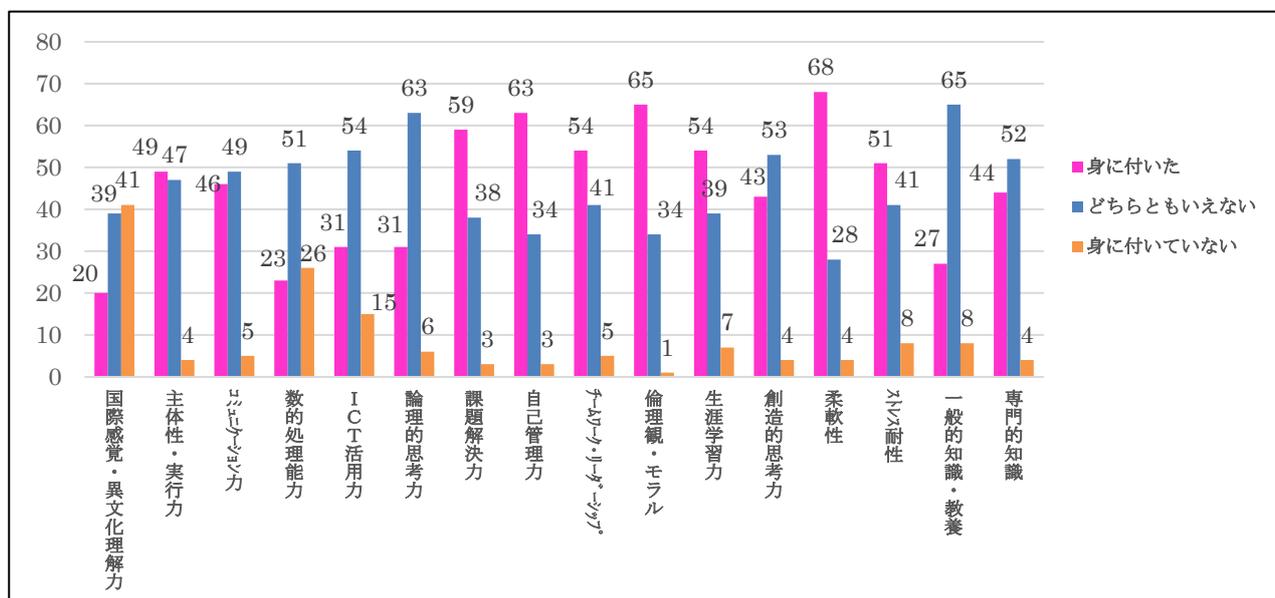


表-5は、教育内容の改善や就職支援プログラム向上を目的として、平成30年度（13期生～21期生対象）に実施した「卒業生アンケート」である。各資質（全16項目）毎に「社会人として必要と思われる能力・資質は身につけていますか」というアンケートを行ったところ、「身に付いた」との回答が多かった資質は、1位「柔軟性」、2位「倫理観・モラル」、3位「自己管理能力」、4位「課題解決力」であった。

また、今回の企業アンケート新規項目で採用側から「身に付いている」と評価を受けた資質は、1位「コンプライアンス・倫理観・モラル」、2位「自己管理能力」、3位「コミュニケーション力」であった。

ョン力」、4位「柔軟性」であった。

卒業生アンケートで「身に付いた」と認識している主な資質については、企業側もほぼ同様の評価をしているという結果になったが、「卒業生アンケート」で4位に評価している「課題解決力」については、採用側は本学卒業生に対してあまり評価していない結果になっている。採用側が求める「課題解決力」と、学生が考える「課題解決力」には認識のズレがあると思われる。

まとめ・考察

今回の「職場アンケート」調査は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、生活や経済に様々な影響が及ぼしているなか実施した。

目まぐるしく変化する社会情勢により、求人の質や数の変化はあるものの、「採用面で特に重視する資質」(P4Q1 参照)や、「求める人材像」(P6Q4 参照)等、就職活動において職場側が特に重要とする資質で回答が多かったのは、前回(H27年度)調査同様「コミュニケーション能力」であった。

しかし、その「コミュニケーション能力」において、本学学生への評価(P5Q2 参照)は17項目中6位であり、「採用面で特に重視する資質」としては、物足りない結果となった。

さらに今回新たに実施した、中央教育審議会答申にある「学士力」や、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」等、これまでに提唱された主要な能力論について、「卒業生アンケート(13期生～21期生対象)」(P10 参照)でも実施したところ、「コミュニケーション能力」について「身に付いた」とする卒業生の評価は16項目中9位であり、こちらもあまり高いものでは無かった。

これらのことから、就職活動において、採用面で特に重視する重要な資質である「コミュニケーション能力」については、職場側もあまり「備わっていない」、卒業生自身もあまり「身に付いてない」という結果となった。

次に、「コミュニケーション能力」以外の資質では、「卒業生アンケート(P10 参照)」の「卒業時に社会人として必要と思われる能力・資質が身に付いていますか」という設問に対して、卒業生が「身に付いた」と回答した資質の上位は「柔軟性」「倫理観・モラル」「自己管理能力」であり、今回の「職場アンケート」での「本学学生に備わっている」と評価する資質(P5Q2 参照)は「マナー・礼儀作法」「協調性」「誠実さ」であった。

これらの資質は「自分を律することができ、意見の違いや立場の違いを理解する力がある」と評価できる一方、純大生を象徴する「まじめさ」「大人しさ」を表す資質ともいえる。

今後は、従来から評価されている「純大生らしさ」に加え、「社会が求める人材」(P6Q4 参照)である、「コミュニケーション能力」や「主体性(物事に進んで取り組む力)」、「本学学生に欠けている点」(P5Q3 参照)と評価されている「ストレス耐性(ストレスの発生源に対応する力)」などの資質向上に向けた教育内容の改善や、実践的な体験やカリキュラムを通じたキャリア教育プログラムの向上を図る必要がある。

最後に、今回のアンケート調査では、コロナ禍における次年度の採用数や選考時期、選考方法等についても調査している。

採用数や選考時期等については変更無しとの回答が多かったが、選考方法についてはウェブ

対応システム導入済や導入予定との回答数が多かった。この結果からも、新しい就職活動様式となっている、ウェブ説明会や面接等に対応した就職支援を強化していく必要性も確認できた。

以上